



登校指導

早川 晃央
(富山)

出勤の前の保護者と街頭で〈あいさつ運動〉するのも仕事

地域では「あいさつ運動」校内では「登校指導」毎学期あり

信号が変わるを数十回見つつ登校指導する新学期

「おはよう」と生徒に交差点で声かける教師は腕章をして

傘をさし生徒の来ないあいだただただ立っている街のおと聞き

二階から五階まで均一の窓とベランダがある赤いマンション

一月の寒雨に傘をもたず駆けぬけていく「バカタレ」二人いた

入口がふあつと明るくなり八時告げる無人の〈富山銀行〉

雨のなか「おはようー」と声高らかに言う生徒だけならいいんだが

ひとりひとり生徒の顔をじっくりと見ているわれは審判に似る

自転車のスピードわざと落としく子のなかにあえて上げる子もおり

スピードをわざわざ上げてゆく子らのSOSを静かに拾う

「ご苦労さあん」副校長が校門に立っててくれてカイロをくれた

父として、教員として、二日間参加するよく〈できる教員〉

コロナ禍はみんな敬遠してたよね。あいさつも街に立つこともまた

このごろの私
卒業アルバム用の写真を撮った。それがこの写真。私生活ではエスニックな服装をしてみたい。インド製のサルエルパンツやベイズリーのシャツを試着しては、踏ん切りがつかずに悩んでいる。



育休中

中山真彩子

(東京)

このごろの私
今年の本厄年女。祈禱の際、「厄」とは社会から「役」を与えられること。そういう心つもりで精進せよ」との言葉にハッと、四月に育休復帰&昇格する私に言われた気がした。一歩ずつ頑張ろう。

祖母と母、私と娘四代で小さなチヨコを四つに分ける

一歩ずつ踏みしめるよう歩く子は（おもちゃ発見！）高速ハイハイ

ママはそこに絶対にいると確信し後ろも見ずに倒れ込む子は

おままごとと本当の食器混じり合い床に転がるこれが日常

「あと何秒数えれば来る？」と娘問うまだ寝ぬ息子を抱く我を見て

三日月をバナナ月だと名付けし子 今日も姉弟でバナナの取り合い

今年から育休中でも受験可と告げられ昇格試験に臨む

課長補佐試験の論文三枚をガリガリと書く百人の群れ

百人の中に女性は手の指で数えるくらい育休一人

面接官三人を前に五分間未来を語るプレゼンテーション

人事部長の合格電話待ち侘びて子どものオムツ急いで変える

保育園の内定通知受け取りてホッと一息ピリッと背筋

四月から育休復帰と昇格と喃語会話が倍速会話に

難病のIGA腎症たまに忘れた頃に数値が上がる

復帰後も無理はダメだと諭したる主治医は数値に丸つけながら